

## 日本語学校で学ぶ外国人とのそば打ち体験

江戸ソバリエ・ルシック 佐藤 悦子

去る5月31日（水）千葉市小中台公民館において、昨年に引き続き「日本語会話サークル小中台」<sup>こなかだい</sup>メンバーとのそば打ち体験が行われた。参加者は17名、国籍は中国（内子供2名）、ベトナム、インド、ロシア。今年の参加者（大人）は留学生や日本に働く夫と共に日本にやってきた女性で、昨年は国際交流協会を通じて参加した留学生の男子が2名参加しましたが、今年は全員女性でした。



そば打ち指導を行ったのは、「千葉手打ち蕎麦の会研究会」会長小片孝子（江戸ソバリエ）・顧問栢沼友彦・顧問大浦 明（江戸ソバリエ）・中村純子（江戸ソバリエ）・浜田宗俊・栗原幸子（江戸ソバリエ）・佐藤俊司（江戸ソバリエ）・佐藤悦子の8名です。声掛けを行ったのは顧問の栢沼さん、栢沼さんの職場仲間の友人がサークルの指導者であったことからこの企画につながりました。

「日本語会話サークル小中台」は国際交流・協力ボランティアグループとして発足17年目を迎える。

これまで400名近い方々が週1回2時間の日本語を学んできました。このサークル活動では月1回は遊びを通して日本を理解してもらおうと、いろいろな企画を考えている。



その1つとして「そば打ち体験」を、ということになり企画が生まれたということです。内容はそば打ち、浴衣の着付け体験、盆踊り体験、玉すだれ見学、茶道体験など、年間を通して日本の文化を体験する機会を設けています。

さあ、そばを打ちましょう。

デモ打ち後、各班に分かれ全員がそばに触れて体験します。栢沼さんの思いに沿い、大切なことは「触れ合い」そこにそばが介在しているだけ、細かいことは置いておいて楽しく体験することを心掛けて指導にあたりました。



自分で切ったそばを食べてみよう！ということで切ったそばに名前の紙を乗せました。  
茹でて、盛り付け、一番楽しいグループ毎の試食タイムです。



会長小片さんの畑の“ソバの花“がいつものように会場に飾られましたが、試食タイムになるとソバの葉は「おひたし」にして出されます。大人気でした。また当日配布した、ソバリエ協会に提供いただいた「美味しい蕎麦の食べ方(英語版)」は、事前の学習時に配布しておけば良かったと反省しました。

感想を書いていただきました。劉(リウ)さんは日本の職人に触れ「日本のそば職人様がすばらしい。おそばはおいしかったです」(原文のまま)、生徒さんからは口々に「おいしかった」と言葉をいただきました。

しかし、「そば屋に行ったことがありますか？」と聞いてみると、意外にも2名しか手を挙げていません(言葉の理解が不十分で、質問の意味が十分理解できていない人もいましたので、正確な2名かは定かではありませんが)。「スーパーのよりおいしい」と答えた人もいました。中国の方が多いこともありラーメンはよく食べているようですが、そばはまだ十分に受け入れられていないようです。

日本語会話サークルでボランティアに当たる方々が、年々増える外国人が孤立せずに毎日の生活を楽しく過ごしてほしいと願い、いろいろな団体の協力を得ながら日本文化や習慣を体験できるよう企画・運営している様子を垣間みて、オリンピックだけでなく、日常の中での外国人に対する日本への理解の一助として、江戸ソバリエを始めとするそばに関わる人々の役割も大きいと感じました。